

第6学年特別活動（学校行事）学習指導案

附属大泉小学校 教諭 早川 聡
吉原 茂
堀口純平
久保幸恵
角町美穂
教育学講座 准教授 林 尚示

1、単元名

H30 オペレッタ Songs for you!～歌が教えてくれたもの～

教材：学校行事・文化的行事

2、単元の目標

(1) 特別活動としての目標

○オペレッタづくり及び下級生への発表を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

(2) 汎用的スキル

○汎用的スキル【感性・表現・創造の力】（キャストの熱演。）

○汎用的スキル【感性・表現・創造の力】（幕絵や大道具、ライト、幕の開閉のタイミング、映像、効果音に工夫をこらしたスタッフの頑張り。）

(3) 態度・価値

○態度・価値【協力し合う心】（オーケストラのハーモニー。）

3、児童の実態

- ・小学6年生という年齢は、中学進学を考える年齢である。
- ・国際中等教育学校への進学者、附属小金井中学校への進学者、附属竹早中学校への進学者、附属世田谷中学校への進学者、その他の中学校への進学者に分かれる。
- ・そのため、35人3学級の105人で活動できる期間は残り少ない。

4、単元について

①教科等から見た特性

- ・オペレッタとはイタリア語で Operetta、ドイツ語で Operette で、台詞と踊りのあるオーケストラ付きの歌劇で、日本では、喜歌劇（きかげき）・軽歌劇（けいかげき）とも呼ばれている。
- ・附属大泉小学校のオペレッタには、2つの大きな段階がある。
- ・1つ目は準備の段階で、総合的な学習の時間のを活用している。
- ・2つ目は発表の段階で、特別活動の学校行事の文化的行事で保護者と下級生に公開している。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

- ・キャストの熱演を指導して汎用的スキルの【感性・表現・創造の力】を高めている。
- ・幕絵や大道具、ライト、幕の開閉のタイミング、映像、効果音に工夫をこらしたスタッフの頑張り支援して汎用的スキルの【感性・表現・創造の力】を高めている。
- ・オーケストラのハーモニーを指導することによって態度・価値の【協力し合う心】を高めている。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全5時間 本時5/5時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (35時間程度)	7月12日 オペレッタ委員発足 夏休み 1人1話ストーリーを考える 9月中旬 どんなメッセージを伝えるのか？ 10月上旬 委員長、副委員長の決定、脚本部、ダンス部、広報部、演出部、音楽部のそれぞれの部に分かれて作り上げていく。 1月9日 台本の決定！練習開始。	○汎用的スキル【問題解決力】	○試行錯誤が可能な場の設定。
第2次 (2時間)	・学校行事の文化的行事で「オペレッタ Songs for you!～歌	○汎用的スキル【感性・表現・創造の力】	○キャストの熱演。

	が教えてくれたもの～」を上演する。	○態度・価値【協力し合う心】 ○汎用的スキル【感性・表現・創造の力】	○オーケストラのハーモニー。 ○幕絵や大道具、ライト、幕の開閉のタイミング、映像、効果音に工夫をこらしたスタッフの頑張り。
--	-------------------	---------------------------------------	--

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・汎用的スキル【感性・表現・創造の力】(キャストの熱演。)
- ・態度・価値【協力し合う心】(オーケストラのハーモニー。)
- ・汎用的スキル【感性・表現・創造の力】(幕絵や大道具、ライト、幕の開閉のタイミング、映像、効果音に工夫をこらしたスタッフの頑張り。)

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	H30 オペレッタ Songs for you!～歌が教えてくれたもの～ ○オペレッタが始まる前の担任の指導	◇役割毎に最終確認をさせ、自信をもって活動に臨めるようにする。 ◇自信とやりがいをもって上演できるように、6年生 105 人でつくってきた日々をふり返らせる。 ◇キャストだけでなく、スタッフ、オーケストラも下級生に伝えるメッセージを意識し、それぞれの役割とめあてをもって取り組むことを確認する。
展開 80分	○ミュージック島の民の場面 ○島を愛する歌の場面 ○フラット・シャープ、ナチュラルという歌でこれから始まる素敵な話を創造させる場面 ○「なんで・・・」という歌で協力することの難しさを表現させる場面 ○「歌が教えてくれたもの」という主題歌を歌う場面	◇スタッフについては、ステージの上手と下手にいるリーダー児童やスポットライト担当などにトランシーバーをもたせて、舞台チェンジや幕の開閉のタイミング、舞台の明るさの確認などを容易にできるようにする。 ◇スタッフやオーケストラ担当でも、希望する児童にはステージに上がり台詞を言って演じる機会をつくる。 ◇キャストについては、合唱隊の役割をつくり、ステージに上がらないときにも歌をうたう場面では舞台に参加できるようにする。 ◇歌をうたう場面では、舞台裏やギャラリイの上にいるスタッフも一緒に歌をうたい、6年生全員で舞台をつくるように声をかける。
結末 10分	○学習成果の自己評価を発表する。	◇オペレッタ成功の喜びとみんなで成し遂げたという実感を学年全体で共有できるように、児童の各リーダーに上演直後の率直な気持ちを語らせる。 ◇自己有用感や帰属意識を高めるために、オペレッタづくりでは、6年生の誰一人欠けても成立しないこと、一人一人がかけがえのない存在だということを伝える。 ◆メッセージを伝えるために工夫して表現できたか。 ◆自分の役割に集中し、精一杯メッセージを伝えようとできたか。

●記録映像 有、2 場面（後方から教師、児童の全体と個別の姿を映したものの、業者収録のため著作権処理が必要。）